

原市小だより

上尾市立原市小学校
令和3年6月30日
学校だよりNo. 4 7月号
編集責任者 校長 豊田 好伸



学校教育目標 「豊かな心を育み、自ら学びたくましく生きる子」

カラー版は [上尾市立原市小学校](#) [検索](#) から
(原市小ホームページ)

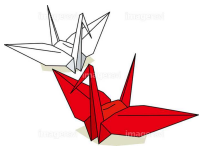
「子どもの能力はいつ、誰が育てる？」

校長 豊田 好伸

時折、家に孫が来ます。職業柄、「二重跳びはできるようになったか」などと声を掛けます。素直だと思っていた孫も最近では苦手なことを聞かれると無視をするようになりました。「練習をすればよいのに」と思いつつも、たまにしか会えない状況ではお助けマンも出番はありません。さて、最近の子どもたちを見ていて少し気になることがあります。イラストのようなことをお子さんはできますか？

◆鶴、折れますか？

◆ぞうきん、しぼれますか？



手先の器用さと集中力がわかります。こだわりも見えます。これって誰が教えるんでしょう。



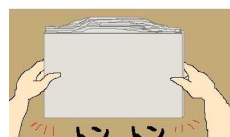
最近はこのことができていない子が多いような気がします。お風呂のタオルもしぼれるんでしょうか。

◆輪ゴムでまとめられますか？

◆紙をそろえられますか？



輪ゴムを二重にするのが難しいようです。低学年でできますか。



これは何年生でできますか。向きがいろいろだと高学年でも難しいかもしれません。

まだありますが、紙面の都合上この辺にしておきます。学習だけでなく、こうした巧緻性（手先の器用さ）や調整力（複数の運動能力を同時に行う）も子どもたちが身に付けるべき大切な能力です。右の図は鉄棒ですが、逆さ感覚や高さ感覚が身につきます。こうした様々な感覚系の能力は小さいときから鍛える方が子どもの能力を発達させることになります。埼玉大学が巧緻性について研究したのですが、巧緻性の高い児童のグループとそうでないグループでは、学習への取り組み方（楽しみ方）が明らかに違うそうです。巧緻性の高い児童の方が楽しみながら学習しているそうです。



子どもたちは経験からもたくさんのかんことを学びます。折り紙を折ったことのない児童は、最初はたどたどしく紙を折りますが、少しずつ慣れ、経験として様々なことを学習していきます。そうした流れの中で集中力や探究心も育まれます。児童は様々な能力を持っています。その能力を如何に育成、発達させられるか。学校というのは、主要な教科を教える場所ですが、それだけにとどまらず、心から体までの児童の全てを健全に育成していくことが最も大きな使命であるはずで

そして、家庭も子どもたち育成の大切な場でもあります。驕的な部分はもちろんですが、それ以外にもたくさんのかん経験ができる場です。「これできる？」「これ知ってる？」と色々な角度から子どもたちに問いかけ、投げかけをしてみてください。お子さんのできること、苦手なことが見えてきます。見えてきたら、たくさん褒めたり、必要な環境を与えたり、親としてやるべきこともはっきりとしてきます。

学校は学校として、家庭は家庭として、それぞれの立場から子どもたちの能力を育て、成長と共に自信となる力にさせたいですね。

